

令和5年度「第8回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者と功績等

氏名／団体名	功 績 等
都賀川を守ろう会	<p>昭和 51(1976)年、不法投棄されたごみや家庭排水等で汚染され、魚も棲めなくなっていた都賀川を守るため、流域の自治会、婦人会、子ども会等が中心となって結成。現在会員数は約 2,000 人。</p> <p>平成 17(2005)年神戸新聞社会賞、同年兵庫県功労者表彰を受けるなど、多数の受賞歴がある。</p> <p>清掃活動、啓発活動、水質調査などにより水質改善に貢献した。</p> <p>また、鮎の稚魚放流、魚のつかみ取り大会等を開催し、住民の憩いの場、地域の財産とすることに尽力。現在では鮎の遡上や産卵が確認され、多様な魚類が息する住民憩いの場となっている。</p> <p>5人が亡くなった平成 20(2008)年の水難事故後は追悼式を開き、安全ハンドブックを作成するなど、川の危険性を知る活動にも注力している。</p> <p>近年は、近隣の小学校から都賀川に関する授業依頼もある。</p> <p>川に慣れ親しんだ子供たちが大人になり、広く川の美化を担う人材となり、そのための循環を築いている。</p>
特定非営利活動法人上山高原エコミュージアム	<p>平成 16(2004)年、兵庫県北部の扇ノ山山麓に広がる上山高原や麓の 7つの集落などをまるごと生きた博物館ととらえ、地域の有形、無形の資源を生かし保全・再生し、上山高原の貴重で豊かな自然を守り育むとともに、自然と共生してきた地域の暮らしに息づく知恵を学び活かし、広く情報発信することにより地域内外の交流を図り、かけがえない自然を次世代に継承し、地域の活性化に寄与することを目的に、地元 7集落の住民を中心に但馬地域の自然保護グループ等で構成する 118名の会員で設立。現会員数は 93名。</p> <p>豊かな生態系を育むブナを主体とした広葉樹林とススキ草原の保全復元・調査研究を実施。昭和 30年代頃の豊かな自然環境を取り戻そうと行政、研究機関、地域住民と連携して活動を展開。</p> <p>自然復元作業、自然観察会や環境学習を実施するなど、地域の自然環境の保全に貢献しており、天然記念物であるイヌワシのつがい定着した。</p> <p>一方、シカ獣害に対応するため、都市住民との連携によりジビエ利用工場の整備、川魚の特産品づくりなどに取り組み、ひょうごフィールドパビリオンにも登録している。</p> <p>平成 25(2013)年 兵庫県知事「自然環境保全活動表彰」、同年環境大臣表彰「自然環境保全活動部門」を受賞、令和 4(2022)年は「未来に残したい草原の里 100選」にも選ばれた。</p>

氏名／団体名	功 績 等
特定非営利活動 法人兵庫県砂防 ボランティア協 会	<p>阪神・淡路大震災時に全国から集まった「地すべり等緊急支援チーム」の活動を契機として、平成9(1997)年、土砂災害から県民の生命・財産を守るための活動を行い、安全な地域づくりに寄与することを目的に設立。平成19(2007)年、NPO法人として認証を受ける。現在の会員数は99名(24社)。令和元(2019)年、土砂災害防止功労者表彰(国土交通大臣表彰)</p> <p>災害発生時の土砂災害発生箇所の緊急点検の実施、砂防えん堤などの施設点検、土砂災害防止に関する啓発活動、土砂災害特別警戒区域指定説明会へのボランティアの派遣、仁川百合野町地区地すべり資料館での各種団体・小学生などへの防災学習やJICA研修の実施、土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援、土砂災害対策技術者講習会の開催、啓発活動、神戸市内の小学生を対象とした「どんぐり育成プログラム」への支援など、土砂災害や砂防に関する出前講座、防災イベントへの参加など、土砂災害警戒区域が約2万1千箇所と非常に多い兵庫県で、県民の生命と財産を守るための活動を続けている。</p> <p>また令和3(2021)年7月の熱海土石災害を受けて県下各地で行った緊急点検活動では、砂防に関する豊富な知識と経験を活かして適切なアドバイスを行うなど、地域の安全安心に無くてはならない存在となっている。</p>